

2021年2月12日～11日

「建国記念の日」

しんぶん赤旗 2021年2月12日(金)

歴史に学び 学問の自由守ろう 「建国記念の日」に反対 オンライン集会

歴史に学び憲法が生きる日本と世界を切り開こうと、「建国記念の日」に反対する集会が11日、オンラインで開かれました。主催は歴史研究団体などでつくる「2・11連絡会」。全国で同様の集会が開かれました。

東京大学名誉教授の木畑(きばた)洋一、小森陽一両氏が講演しました。

木畑氏は「植民地主義を問い直す」として、今多くの植民地が独立したが、なお残された地域があり、過去の支配は現在にも影を落としていると指摘。植民地犯罪の責任追及も不十分で、「慰安婦」や徴用工の問題など、支配した側とされた側に歴史認識の差があると述べ、植民地主義を不断に問い直していこうと訴えました。

小森氏は、日本学術会議会員の任命を菅政権が拒否し人事介入したことは、「学問の自由」を定めた憲法に反し国民主権にも反すると抗議。「戦争する国づくりに反対する学者を狙い撃ちにした。市民と野党の共闘に学者が加わることをつづそうとしている。安倍政権の改憲路線を引き継ぐことを、菅政権は出発点であらわにした」と批判。政権交代で「人事独裁体制」を倒そうと呼びかけました。

リレートークでは、原発事故の賠償問題、核兵器禁止条約と日本の課題、コロナ禍での朝鮮学校差別についてそれぞれ訴えました。

「誠実な歴史認識の向こうにアジアと世界の平和を見すえつつ、憲法の理念が生きる社会を創ろうと呼びかける集会アピールを採択しました。

しんぶん赤旗 2021年2月11日(木)

主張 「建国記念の日」 学問の自由を守る決意新たに

きょう2月11日は「建国記念の日」です。1966年、当時の佐藤栄作内閣が広範な国民の反対を押し切って祝日法を改悪し、戦前の「紀元節」を復活させました。

「紀元節」自体に科学的・歴史的な根拠はありません。明治政府が1873年、天皇の専制支配を権威づけるために、天照大神の子孫とされる架空の人物・神武天皇が橿原宮で即位した日として「紀元節」をつくったのが経過です。

神話批判を禁じた戦前

戦前の日本では「学問の自由」は保障されず、天皇や皇室の歴史の研究、とくに日本古代史の実証的研究や「建国神話」の批判はタブーとされました。

1892年には久米邦武帝国大学教授の「神道は祭天の古俗」という論文が発禁処分をうけ、大学を追われる事件が起きました。

1940年には「古事記」「日本書紀」の神話や初期の天皇の記述を実証的に分析し、神武天皇から仲哀(ちゅうあい)天皇までの実在性に疑問を呈していた津田左右吉早稲田大学教授が、出版法26条の皇室の尊厳冒瀆(ぼうとく)の容疑で起訴され、大

学を辞職せざるを得なくなりました。

津田氏の著書が政府から発禁処分されたのは、神武天皇即位から2600年という大キャンペーンの最中の「紀元節」の前日でした。天皇の神格化が「学問の自由」を乱暴に踏みこみじった痛苦の歴史の象徴です。

「紀元節」は戦後、国民主権や思想・学問の自由、信教の自由と政教分離を定めた日本国憲法のもとで、1948年に廃止されました。自民党政権が「紀元節」を「建国記念の日」として復活させたのは、「学問の自由」を保障する23条をはじめ憲法にたいするあからさまな挑戦です。

菅義偉首相が昨年9月、日本学術会議の新会員6人を任命拒否したことが、憲法にも日本学術会議法にも反する暴挙として大問題になっています。のべ1千を超える学術団体や文化人、宗教者、ジャーナリスト、法曹界、市民団体などから抗議の声が上がりました。

上代文学会の抗議声明は「私たちは、かつて津田左右吉の『古事記』『日本書紀』研究が国家権力によって弾圧された経緯を熟知しています。『神武紀元二千六百年』の虚構性を暴露するものだったことが当時の国策に抵触したのです」と指摘しています。

そのうえで「戦後の上代文学研究者は、日本史研究者とともに、津田の受難を二度と繰り返さないことが研究発展のために必須である」としてきたのべ、「今般の措置は、私たちの研究者としての信条を踏みこむものであり、自由闊達(かっただ)であるべき学問討究を萎縮(しじく)へ導く暴挙」と批判しています。

精神的自由の圧殺許すな

菅政権は任命拒否の理由をまともに説明していません。しかし、任命拒否された6人が安保法制をはじめ自公政権の施策に異論をのべていたことは周知の事実です。政権の意に沿わない学者の排除は、戦前の「学問の自由」への弾圧を想起させます。それは国民の表現の自由、思想・良心の自由の圧殺に道をひらくものです。

日本学術会議への人事介入は、菅政権の強権政治の危険性を浮き彫りにしています。きょうを、菅政権の暴挙を許さず「学問の自由」を守る決意を新たにしようではありませんか。

「日本人は目を覚ます時」建国記念の日、浜松でギルバート氏講演

産経新聞 2021.2.11 19:34

「建国記念の日」の11日、浜松市内で「建国記念の日奉祝式典」(浜松市建国記念の日奉祝運営委員会主催)が開かれた。今年新型コロナウイルスの影響で、一般市民を対象とした式典は中止となったが、関係者のみ約150人で実施された。

例年は1千人規模で行われているが、感染予防を徹底しつつもこの記念日に何らかを表明したいとの意向から、規模を縮小しての開催となった。

式典で、運営委員会の御室健一郎会長(浜松いわた信用金庫理事長)は「ウイルス感染はわが国の危機管理体制が内包する課題を浮き彫りにした」と指摘。次回以降は「全ての浜松市民が心から祝えるような会とするよう一層努力する」とし、一刻も早いコロナ収束を願った。

また、米カリフォルニア州弁護士、ケント・ギルバート氏の「日

本の自立と覚醒が世界を救う」と題した記念講演はリモートなどで実施された。ギルバート氏は冒頭のあいさつで「2600年間、同じ体制が続いていることがどれだけ重要なことかを国民に考えてもらうのが建国記念の日」と式典開催の意義に賛同していた。

講演では「戦後の日本を検証したい」として、米国による占領政策の問題点を歴史的な逸話を織り交ぜながら解説。「不戦主義」の課題として「国際法だけでは安全を保障することが不可能なので国家の存続が危ない」などと指摘した。そして「ほとんどの国は日本が大国としての役割を果たすことを期待している。自立した国家として自分の国益を守るべきだ。そろそろ日本人は目を覚ます時が来ました」と締めくくった。

【主張】建国記念の日 「国民を守る日本」であれ

産経新聞 2021.2.11 05:00

苦難の中での、建国記念の日となった。

新型コロナウイルスの収束はなお見通せない。そんなときだからこそむしろ、国の成り立ちに思いをはせ、国とは何なのか、改めて考えたい。

この日、初代天皇である神武天皇が即位したとされる。明治初めに紀元節という祝日となった。長い歴史を持つ国に生きている幸せを、思わずにいられない。

新編日本古典文学全集「古事記」の記述では、神武天皇と兄は「何地（いづく）に坐（いま）さば、平（たひら）けく天（あめ）の下の政（まつりごと）を聞こし看（め）さむ」と相談し、神武東征が始まった。国を穏やかにするためである。

そうした国の子孫として、日本人は幕末の外圧にも、先の大戦の敗戦という国難にも耐え、豊かな国を築いてきた。誇りとすべき先人の歩みだろう。

ただ、その後の日本が先人に恥じない国を造り得たかといえば、「いまだ至らず」と言わざるを得ない。新型コロナウイルスへの政府対応の鈍さを見ていると、特にその感が強かった。

国のコロナ対策はこれまで、営業時間の短縮や外出自粛など「要請」が基本だった。諸外国のような爆発的な患者の急増に至っていないのは、国民の自主的な協力によるところが大きい。

しかし全員が協力的であるわけではない。強制力がほとんどない日本のコロナ対策の不備は早くから指摘されていた。適切な強制力と、店舗などへの経済的な支援で国民を守るのが本筋だった。

罰則を盛り込んだ特別措置法の改正を先送りし続けた政府の姿勢は極めて甘い。第3波の脅威が高まる中で改正法を成立させたのはごく最近のことだ。

国家は国民を守るためにある。この基本的な認識が、現在の日本の政治には希薄なのではないか。戦争への反動からか、国家の力を警戒する声がいまだに根強い。

特措法改正の議論でも私権の制限に対する否定的な意見があった。しかし国家は適切に力を行使しなければ国民を守れない。

国の起源を思う日である2月11日ですら、戦後、祝日とすることは反対する声が強かった。この日が再び祝日と決まったのは昭和41年である。祝日法を改正する国会では怒号が飛び交った。

国家の力をいたずらに警戒するのは戦後の誤った風潮である。国民を守る国家でありたい。

建国記念の日 各地で式典や集会 ことしは感染防ぐため規模縮小

NHK2021年2月11日 22時09分



建国記念の日の11日、これを祝う式典や反対する集会が各地で開かれました。



このうち、東京・渋谷区では神社本庁などで作る「日本の建国を祝う会」が式典を開き、ことしは感染を防ぐため出席者数などの規模を縮小し、主催者の発表で100人が参加しました。

この中で、会の代表を務める國學院大学の大原康男名誉教授があいさつし「この式典に臨み、かつてわれらの父祖たちが過去、幾たびかのかん難を熱意と努力によってしのいできた輝かしい歴史を改めて思い起こしたい」と述べました。

そして「今般の感染症に限らず、今後起こりうるあらゆる緊急事態に対処するためには、憲法改正の議論は避けて通れない。輝かしい令和の国づくりにまい進することを誓う」などとする決議が採択されました。

一方、『「建国記念の日」に反対し思想・信教の自由を守る連絡会』はオンラインで集会を開催し、主催者発表で歴史学者や弁護士など合わせて200人近くが参加しました。



この中で、憲法9条を守る活動を行う「九条の会」事務局長で東京大学名誉教授の小森陽一さんは「日本学術会議」の会員の任命が拒否された問題について講演し「学問の自由を定めた憲法に全面的に違反していて、日本をアメリカと一緒に戦争する国にしていくための法整備に反対した学者6名が狙い撃ちされた。断じて許せない」と述べました。

そして「平和主義の精神を高らかに掲げた日本国憲法の理念に立ち返り、誠実な歴史認識の向こうにアジアと世界の平和を見据えつつ、憲法の理念が生きる社会を作り出していく」などとするアピールが採択されました。

建国記念の日 反対派が集会

北海道新聞 02/11 23:57

戦前の紀元節にちなんで制定された祝日「建国記念の日」の11日、紀元節復活に反対するオンライン集会が開かれた。道内各地から約150人が参加し、「歴史を踏まえ、平和憲法を守り、生かす運動を発展させる」との宣言を採択した。

北海道平和運動フォーラム、道労連加盟労組などの「靖国神社国営化阻止道民連絡会議」が主催。新型コロナウイルス感染防止のためオンラインとした。

北大大学院法学研究科の吉田徹教授（比較政治）が講演し、欧米で広がる排外的なナショナリズムの背景に、グローバル化や経済格差の拡大があると指摘。「日本が自国優先とならず平和主義などの憲法原則を守るか、真剣に考えるべき局面だ」と語った。

札幌市内で毎年「奉祝道民の集い」を開いている日本会議北海道本部は、コロナ禍を理由に開催を見送った。（平岡伸志）

日本会議大阪がオンライン講演会 建国記念日

大阪日日新聞 2021年2月12日

建国記念日の11日、保守系団体の日本会議大阪は「建国記念の日をお祝いする府民の集い」をオンラインで配信した。



戦後、皇籍離脱した11の旧宮家の歴

史的背景や皇籍復帰について講演する勝岡さん

最初に日本会議大阪の衛藤藤運委員長が「新型コロナウイルス感染症で大変な事態になっているが、私たち国民が高い意識を持って、この難局を乗り越える覚悟が試されている」とあいさつ。その後、明星大戦後教育史研究センターの勝岡寛次さんが「皇位継承問題を考える旧皇族について、私たちの知らないこと」を題して講演を行った。

皇位継承策に関しては、悠仁さま（14）が次世代の唯一の継承資格者である状況で、世論に支持が広がる女性・女系天皇容認と、男系維持、旧宮家（旧皇族）の男系男子の皇籍復帰に大別される。

勝岡さんは、1947年に皇籍離脱した11の旧宮家の歴史的背景や、皇籍離脱後の皇族と旧宮家による「菊栄親睦会」について解説。第119代光格天皇が傍系の閑院宮家出身であることを挙げ、「皇統の危機の時に天皇を輩出するのが宮家の役目。血のスペアがなければ今日の皇室はない」と、旧宮家の皇籍復帰を訴えた。

建国記念の日

山口放送山口 2021.02.11 18:39

2月11日は、「建国記念の日」。山口県内では建国記念を祝う式典や反対する県民集会が開かれた。

このうち山口市の市民会館では自治会や婦人会を中心にした祝賀式典が開かれ約90人が集まった。市建国記念の日奉祝会の清水力会長は、「日本の建国を祝い、国を愛する心を養い、先人の遺徳を偲び、我が国の悠久の発展を願う日」と話していた。建国記念の日は神武天皇が即位したといわれる「紀元節」に由来していて、1966年、昭和41年に制定された。ことしはコロナ禍で例年より参加者も少なく、日の丸行進も中止するなど規模を縮小した。式典も約40分で終わり参加者には紅白の餅が振る舞われ建国記念の日を祝った。一方、山口市の県教育会館では建国記念の日に反対する人達の集会が開かれ約80人が参加した。憲法

を活かす市民の会の鳥家治彦共同代表は、「確かな歴史的事実に基づいた本当の日本の歴史とは何か、あるべき私たちの未来とは何かを考えたいと思う」と述べていた。集会は1967年から毎年開かれているもので、思想と信教の自由を守る県民集会として続いている。ことしはコロナ禍のため講師を県外から呼ばず、例年より時間が短縮されるなどの対応がとられた。集会の最後には「諦めず連帯を強め団結して平和を実現するためにともに闘う」という集会宣言が採択された。

建国記念の日 それぞれ国のあり方考える 祝賀と抗議の集会 大分市内 /大分

毎日新聞 2021年2月12日 地方版



君が代が独唱され、起立する参加者たち

「建国記念の日」の11日。祝賀と抗議、それぞれの立場から国のあり方を考える集会が大分市内で開かれた。

「日本の建国をお祝いする大分県民の集い」（日本の建国をお祝いする県民の会主催）がJCOMホルトホール大分で開かれ、参加者が万歳三唱して記念の日を祝った。

県民の会の広瀬舜一代表は集会で、「尖閣諸島の沖合に中国船が侵入し、日本の漁船を追い回している。安全保障がしっかりしているからこそ、国民が幸せになる。自分の国は自分で守る強い覚悟が必要だ」と訴えた。

この後、百地章・国士舘大特任教授が「男系による皇位の安定継承」をテーマに講演した。



参加者から質問を受ける崔さん（奥）

一方、市民グループ「天皇問題を考える市民ネットワーク」は、「建国記念の日に抗議する市民集会」をコンパルホールで開催。「神話に基づき神武天皇の誕生日を建国記念の日に制定すること自体が間違っている」と抗議の声を上げた。

講師として招かれた在日韓国人3世でピアニストの崔善愛（チェソンエ）さん。「日本では国籍取得を『帰化』と言う」としたうえで、「天皇制を受け入れ、日本人になるよう努力するという意味が含まれているようだ」と指摘。「外国では帰化ではなく、単に国籍を取ると言う。日本では国籍は個人の権利ではなく、国が与えるものと考えられている」と語った。【辻本知大】

建国記念の日 賛成派、反対派それぞれの集会・鹿児島市 鹿児島テレビ 2021年2月11日 19:18

2月11日は建国記念の日です。鹿児島市では建国記念の日に賛成・反対それぞれの立場をとる2つの団体が集会を開き、主張を展開しました。

鹿児島市で開催された日本会議鹿児島の建国記念の日を祝う集会は、新型コロナ対策のため関係者のみが出席して開かれ、会員向けに初めてオンライン配信が行われました。

集会では「コロナ禍の緊急時でも国は必要な強制力を発揮できない現状」として、憲法改正の議論などを求める決議文が採択されました。

日本会議鹿児島の高橋辰治専務は「建国記念の日、2月11日は国の誕生日ですので、国民としてお祝いする場を提供できたことが大変よかった」と話しました。

一方、「建国記念の日は戦前の軍国主義の象徴となった紀元節が前身」として、反対の立場を示す県護憲平和フォーラムの集会も鹿児島市で開催されました。

講演した志学館大学の茶谷誠一教授は、菅総理が去年、日本学術会議から推薦された会員候補6人を除外したことについて、戦前に個人の思想が国に制約されていた例を挙げながら「思想や学問の自由を国家権力が侵害したもの」と強く批判しました。

茶谷教授は「戦前戦中に日本で起きた事例を見れば、民衆の生活にまで国家権力の侵害が及ぶことが明らかになるはず」と語りました。

建国記念の日 「紀元節」の復活に反対する集会も

MBC（南日本放送）02/11 19:07



鹿児島市では、県護憲平和フォーラムが「紀元節」の復活に反対する集会を開きました。

集会では、歴史学が専門の志学館大学の茶谷誠一教授が講演し、去年9月、日本学術会議が推薦した会員候補の任命を菅総理が拒否したことを「不当な政治の介入」と批判しました。

（志学館大学 茶谷誠一教授）「憲法で保障されている思想、信教の自由、それに加えて学問への自由に対して公然と足を踏み込んできた」「戦前、戦中の日本で起きた事例を見れば、それが一般民衆の生活にまで、国家権力による侵害が及んでくることが明らかになってくるはず」

茶谷教授は、このように述べ、日ごろから政治に関心を持ち、国家権力の暴走を止めるよう訴えました。

「建国記念の日」を祝う集会

MBC（南日本放送）02/11 19:08



2月11日は「建国記念の日」です。戦前は、神武天皇が即位したといわれる日「紀元節」とされていましたが、戦後の1967年に「建国記念の日」として国民の祝日になりました。鹿児島市では「建国記念の日」を祝う集会が開かれました。

集会は日本会議鹿児島と県神社庁が開いたもので、新型コロナの

感染対策で出席者を役員に限定し、式典の様子は、動画投稿サイト「YouTube」で配信しました。

「政府主催による奉祝行事の開催をあたためて強く求め、輝かしい令和の御代の国づくりにまい進することを誓う」

このあと、参加者全員で「紀元節の歌」を歌って祝いました。

（日本会議鹿児島 高橋辰治事務局長）「2月11日は国の誕生日。国民として祝う場をこちらが提供できた」

「建国記念の日」を迎えるに当たっての内閣総理大臣メッセージ

首相官邸 HP 令和3年2月10日

「建国記念の日」は、「建国をしのび、国を愛する心を養う」という趣旨のもとに、国民一人一人が、今日の我が国に至るまでの古（いにしえ）からの先人の努力に思いをはせ、さらなる国の発展を願う国民の祝日であります。

我が国は、四季折々の豊かな自然に恵まれ、長い歴史を経て、諸外国に誇れる日本固有の文化や伝統を育んできました。私たちは、人と人との絆（きずな）を大切にし、家族や地域で互いに手を携えて助け合い、今日の社会を築いてきました。知恵と創意工夫により、自然に向き合い、自然との調和を図りながら、科学技術の発展をはじめ、様々な分野において、人類の営みに大きく貢献してきました。

長い歴史の中で、我が国は、幾度となく、大きな困難や過酷な試練に直面してきましたが、その度に、先人たちは、勇気と希望をもって立ち上がり、一人一人のたゆまぬ努力により今日の平和で豊かな国を築き上げ、自由と民主主義を守り、人権を尊重し、法を貴ぶ国柄を育ててきました。そうした努力の礎の上に、今日の発展があります。

今、我が国は、新型コロナウイルス感染症との闘いという国難の最中にあります。先人たちの足跡の重みをかみしめ、国際社会とも緊密に連携しながら、国民の皆様と共に、この難局を乗り越え、ポストコロナの新しい社会をつくり上げてまいります。

国民から見て何が当たり前かをしっかりと見極め、困難な課題に対しても果敢に挑み、乗り越えていく。国民の命と暮らしを守り抜く。「安心」と「希望」に満ちた社会を実現する。「建国記念の日」を迎えるに当たり、私はその決意を新たにしております。

「建国記念の日」が、我が国のこれまでの歩みを振り返りつつ先人の努力に感謝し、さらなる日本の繁栄を希求する機会となることを切に希望いたします。

令和3年2月11日
内閣総理大臣 菅 義偉